

クリミアの侵略はウクライナ兵 20 万の死をもたらす—— 元ゼレンスキー補佐官

<https://www.rt.com/russia/579769-crimea-invasion-kill-ukrainian-soldiers/>

RT

July 15, 2023



キエフは西側に「完全に頼っていて」、軍事的手段によって領土を取り戻すことはできないと、アレクセイ・アレストヴィッチは言った。

クリミアを侵略する代価は、キエフにとってあまりにも高くつくだろうと、ウクライナ大統領ウラジミール・ゼレンスキーの元アドバイザーAleksy Arestovich は今週、談話を発表した。その作戦は、おそらく数十万という死傷者を出すだろうと、彼はロシアのジャーナリスト Yulia Latynina に話した。

クリミア半島を軍事的手段によって取り戻す「見込みはほとんどない」と、モスクワとの現在の紛争で、キエフに残っているオプションを論じながら、アレストヴィッチは言った。「その代価はどれほどのものになるだろうか？ 成人男性の 20 万人が消え去るだろう」と彼は、ウクライナが失うであろう将兵の数に言及して、つけ加えた。ウクライナの経済もまた、この過程で「全面的に破壊される」だろうと、彼は警告した。

キエフはすでに、西側の支援者に「全面的に依存している」と、元大統領アドバイザーは認めた。万一、アメリカとその連盟国が、ウクライナ軍への武器供与を中止したら、彼ら

は、ロシアに併合させた領土を取り戻せないだけでなく、彼らの現在の地位までも防衛するのに苦勞するだろう、彼は言った。

アレストヴィッチはまた、ワシントンとその同盟国が、この紛争で彼ら自身の利益を追求していることを非難した。「正直に言おう。この戦争での我々の対外目標は、我々のスポンサーや支援者の対外目標と、鋭く対立している」と彼は言い、西側は、ウクライナの領土とその人民たちの生命を狙ってでも、成果を得るために、喜んで犠牲にしようとしているのだと言った。

ウクライナは今、西側の指導者たちに対して、「感情的な」レベルでのみ、影響を与えることが出来る、と元大統領アドバイザーは言い、**キエフは自分自身の主権を構築することに、もっと力を入れるべきだった**、とつけ加えた。「我々は…現実の利益に基づいた関係が必要なのだ。それが西側の理解すべき唯一のことだ」と彼は言った。アレストヴィッチはまた、「**非道徳的な政策と、…真剣な決断ができない無能さが、西側の主たる弱点なのだ**」と言った。

それでもなおウクライナは、その西側の支援者を見捨てて、自分自身の目標を追求することが、どうしてもできないでいる、と元アドバイザーは主張し、それはキエフにとって「死の終わり」になるだろうと加えた。唯一の気休めは、ロシアとの和平と引き換えに、NATOに参加させてもらうことであろう。

「戦争をやめて NATO に参加する？ 多くの人々は、それは歴史的なチャンスだと言うだろう」と、前大統領の腹心は言った。彼はまた、現在の接触の路線において、ロシアとの和平に合意するのと引き換えに、NATO の保証を得ることを、「かなりよい取引」だと言っている。アレストヴィッチによれば、そのような合意はまた、西側に反ロシア制裁のいくつかを中止させ、モスクワにそのような条件呑ませることになるという。

彼のその発言がなされたのは、大いに宣伝されたウクライナの夏の攻勢の時期だったが、それは、それが始まって1か月半ほどのうちに、戦場での意味のある変化をもたらすことなしに終わった。ウクライナ軍は多大な損失を被り、西側の供与した重装備を含めて、ロシア防衛軍への攻撃はほとんど失敗した。西側メディアによれば、キエフを支援した者たちもまた、作戦のスロー・ペースに失望したという。

モスクワはたえず繰り返して、ウクライナとの平和協定の用意があると知らせてきた。彼らはまた、キエフが外交の場で進歩を見せないことを非難し、昨年ゼレンスキーが出した、ロシアのプーチン大統領が権力の座にとどまる限り、協議を禁止するという発令を、引用した。

キエフは自分自身の平和計画を押し進め、ロシアがその軍隊を、ウクライナの 1991 年境界内部の領土から引き上げることを要求した。モスクワは、それは現実からかけ離れたものだとして、その提案を拒否している。

訳者注：——「自暴自棄」という言葉が、先日の我々の記事の中心だった。ここでもゼレンスキーの取る行動は自暴自棄である。あるいは無謀というべきか、確信犯というべきか、自分が見えない状態にある。そのため、彼をおだてて、利用しようとしていた NATO やバイデンからすら、見放されつつある。元ゼレンスキー・アドバイザーだといふこの人は、ゼレンスキーと西側の、共通の弱点や騙し合いを、うまく説明してくれる。特に強調部分（3 頁）前後を見よ。プーチンも同じ忠告をするだろう。

ところで、アメリカの国務長官ブリンケンはどう言っているか？ 彼もゼレンスキーと同じ立場に立たされ、投げやりな言い方をしており、それしか考えることがないかのようである：——

クリミア大橋攻撃についてのアメリカのコメント

<https://www.rt.com/news/579864-blinken-crimea-bridge-attack/>



どう戦うかはウクライナの決めることだ——米国務長官ブリンケンいわく

ワシントンは Kerch Bridge（クリミア大橋）の状況を「モニターしている」と、米国務長官 Antony Blinken は、月曜日、記者団に話した。彼はアメリカが、ウクライナのこの橋への攻撃を支持するかどうかは、直接には答えなかった。ここでは 2 人の民間人が殺され、14 歳の少女が孤児となった。

国務省のブリーフィングでこの橋への攻撃について訊ねられ、ブリンケンは、「それについては特に言うべきことはない」と答えた。

「この事態については、我々はモニタリングしている」と、ブリンケンは記者団に答え、「一般的な提案として私に言えることは、もちろん、その領土、人民、自由の擁護について、この戦争の指揮をどう取るかは、ウクライナの決定することである」と言った。

ロシア政府は、この橋は、月曜日早朝に、2発の魚雷ドローンによって標的とされたと言った。この爆発は、その橋脚を破損することはなかったが、ある家族が車で通行中に、道路部分の1スパンを吹っ飛ばした。

アレクセイ・クリーク、40歳とその妻ナタリア、36歳が即死した。彼らの娘アンゲリーナ、14歳が、重傷を負ってクラスノダールに空輸された。

「この事件は、キエフ政府によるもう1つのテロ攻撃である」と、ロシア大統領プーチンは、月曜午後に言った。「この犯罪は、軍事的観点からも無意味なものだ。なぜならクリミア大橋は長い間、軍事輸送に使われてはおらず、罪のない市民が殺され負傷しただけという、残忍なものだ。」彼はウクライナに対する速やかな報復を誓った。…以下、略。

【訳者 Greatchain 注】

ブリンケン氏は、この橋の爆破はウクライナという主権国家の決定によるもので、とやかく言うべきでないと言うが、実質的にウクライナを指導しているのはアメリカである。プーチン大統領は、その破壊は全く「無意味」だという。クリミア大橋は本来、あらゆる人々に開かれた交通と輸送の手段であろう。

これを破壊するというのは、たとえて言えば、北海道を目の敵にする、プロ野球熱狂者や政治家がいたと仮定して、彼らが青函トンネルや千歳空港を爆破して、快哉を叫ぶようなものである。これは「兇戯」というべき精神異常者のやることだが、今、ウクライナを中心として、世界の狂った者たちが、平然と人命を犠牲にしながら、この狂った「**残忍な**」儲け仕事をやろうとしている。

泡を食ったのはわが国の政府——のはずである。わが国の人々は総じて紳士なので、ゼレンスキー大統領も紳士として振舞うものと予想しただろう。ところがそうではなかつ

た。しかしこれをなお、予想通りだったという人があるかもしれない。私はそういう人を信用しない。